ICT2024-12

教材・支援機器活用実践事例【ICT】

イメージを絵で表現するための ICT 活用
「美術（描画アプリを使った描画と作品紹介）」

子どもについて	所属・学年	特別支援学校　高等部３年
	障がい名等	肢体不自由・知的障がい
	子どもの実態（学習上又は生活上の困難さ等）	・協調性をもってアイディアを出し合える。 ・空間認知や形の認知が弱く、手先の不器用さ、吃音などが見られる。
授業について（教材・教具を使用した授業や指導場面）	教科名等	美術
	単元(題材)名	単元（題材）名「キュビスムで自画像を描こう」
	単元(題材)の概要	・タブレット端末の描画アプリやスタイラスペンを使って、自画像を様々な角度から撮影した写真をトレースしたり、描画レイヤーを何枚も重ねたりして１つの絵として組み合わせ、キュビスムを体験する。
教材・教具支援機器について	教材・教具 支援機器	タブレット端末、スタイラスペン、大型モニター、描画アプリ
	ねらい・工夫点	〈ねらい〉 ○ピカソのキュビスムのルーツについての調べ学習を行ったり、キュビスムの仕組みが描画アプリで再現できたりする。また、描画アプリを使えるようになると、余暇活動の幅が広がる。 〈工夫点〉 ・教師がアプリを使って描いたキュビスムの自画像作品の紹介と、示範を提示した。 ・簡単な操作で絵が描けるアプリを紹介し、簡単なイラストを教師の見本を見ながら一緒に描いて、基本的な使い方を覚えた。 ・指とスタイラスペンで書いたときの違いが分かるように、どちらも体験した。 ・全員が見やすく、コメントもしやすいように、大型モニターを使って鑑賞を行った。
	材料・作成方法等	タブレット端末、アプリ（procreate、ibisPaint）
子どもの変容や評価		・自分の思いや考えを、簡単に形や絵、色として表現できることで、楽しみながら取り組めた。生徒同士で作品に対する意見のやりとりや、アプリの使い方について教え合うなど、生徒が主体的に活動する場面も多く見られた。失敗しても簡単に修正できる点でも、安心しながら取り組み、出来上がった作品に満足感がプラスされて、鑑賞の際に自信をもって作品紹介ができた。

（令和６年度）